

## 2022年度 第2回 JSR 編集委員会 議事録

日時：2022年6月13日（月）20時

場所：オンライン（Zoom）会議

出席：川口 善治（担当理事）、大島 寧（委員長）明田 浩司、石井 賢、今城 靖明、竹内 大作、高畑 雅彦、茶藪 昌明、出村 諭、二階堂 琢也、長谷 斉、福岡 宗良

長谷川 和宏（アドバイザー）

欠席：鈴木 亨暢

陪席：杏林舎／田村、明松（記）

### 報告事項

#### 1. 委員の交代について

川口 善治先生が JSR 担当理事に、長谷川 和宏先生がアドバイザーに就任。また茶藪昌明先生が新たに Deputy Editor としてとしてご参加頂く事が決定した旨が報告され、各委員も自己紹介を行った。

#### 2. JSR 投稿状況

一同査収し、本年度は学術集会の抄録の評価の上位 200 名に JSR への執筆依頼を出す事が確認された。

### 審議事項

#### ・優秀論文のネーミングについての再考

学術集会の抄録の評価の上位に執筆依頼をしたものに「優秀論文」と論文に表記をしているが、日本脊椎脊髄病学会特集号（1・2・5・9号）に掲載された論文から特に優秀な2論文を表彰する「優秀論文賞」と混同される方がいらっしゃるため名称の変更が必要なのではないか。（2021年度 第3回 JSR 編集委員会にて1度議題に挙がっているが、後日再検討となっている）

- 長谷川アドバイザー：「優秀論文賞」と区別をつけるため「推薦」「候補」など区別がしやすいものを記載してはどうか。
- 川口理事：優秀と記載すると賞と混在してしまうので執筆依頼したものは「学会推薦論文」としてはどうか。

→6月いっぱいまでネーミング案を募集し、特になければ「学会推薦論文」とする事となった。

・脊椎脊髄病学会（JSSR）以外の関連学会の投稿査読システム（S1M）使用について

- 長谷委員：最初は JSSR のみ S1M を使用してみるとの話だったがそろそろ関連学会でも使用してもいいのではないか。
- 長谷川アドバイザー：関連学会が S1M を使用するために関連学会からも S1M の DE として参加頂く必要がある。本変更に伴う費用を明らかにし、理事会での審議も必要になってくる。全関連学会の意向を確認し、足並みを揃えて検討をしてほしい。
- 川口委員：各学会で一度話し合いをして頂き、今後どの様にやっていくかを報告してほしい。
- 長谷委員：S1M でそれぞれの会で別の査読者を立てたりなどできないか。
- 杏林舎 田村：一つのシステムで 8 学会の査読を行うとなればシステムの改修は必要になってくる。その他の方法としては各学会で S1M を契約して頂き入稿先を JSR とする方法がある。

→各学会、杏林舎で一度吟味をするが、関連学会での S1M 使用を前向きに検討する事とした。

・その他

- 長谷川：テクニカルノートの投稿を増やすアイデアの一つとして、手技が理解しやすい動画も投稿可能であることを公示するのはどうか。
- 高畑委員：症例報告の投稿が少ないので投稿が増えるように症例報告アワードなど何か設立してもいいのではないか。また動画投稿の場合の著作権がどうなるのか知りたい。
- 大島委員長：症例報告の投稿も受け付けている事をどこかでアナウンスしてもよいのではないか。また投稿数が増えてきたら賞も検討してもいいかもしれない。
- 出村委員：側彎症学会でも症例報告の執筆依頼をして投稿数を増やしている。貴重な報告もあるのでいいアイデアだと思う。
- 杏林舎 田村：動画の著作権については、何も表示が無い場合論文などと同じ著作権に準拠する事になる。しかし近年第三者が著作権を保持する動画の投稿が増え国際誌では別途動画の著作権について明記する傾向にあるため、JSR でも著作権トラブルを避けるため投稿規定には記載した方がよいと考える。過去に掲載した動画や図表を一部改変して投稿する場合の著作権は、初出誌の著作権ルールに従い、未公開の素材については所有者が保持することに注意し、改変や編集を行う場合も初出誌の著作権者あるいは所有者からの許可取得等の処理が必要となる。

次回編集委員会の開催について

開催日は未定